

第7回東京オリンピック・パラリンピック プロジェクト推進本部会議

1 日 時 平成29年3月22日(水) 10:10～10:50

2 場 所 第一会議室

3 出席者

市長、鈴木副市長、神谷副市長、病院事業管理者、教育長、総務局長、総合政策局長、
財政局長、市民局長、保健福祉局長、こども未来局長、環境局長、経済農政局長、
都市局長、建設局長、中央区長、花見川区長、稲毛区長、若葉区長、緑区長、美浜区
長、消防局長、会計管理者、議会事務局長

4 議題

(1) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉市行動計画【2017年度版】の策定に
ついて

5 議事の概要

(1) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉市行動計画【改定版】の策定について

- ・議題について事務局より説明した。
- ・事務局から議題について説明し協議した結果、一部内容を追加・修正することで決定した。

6 会議経過

司 会： これより第7回東京オリンピック・パラリンピック プロジェクト推進本部会議を開催します。

最初に熊谷市長からお話をいただきます。

市 長： 2017年になり、大会まであと3年。行政的には3年はあつと言う間なので、
いよいよ本格的な展開をしていかななくてはいけない段階になった。

昨年はリオオリンピック・パラリンピックで、千葉市ゆかりの選手も活躍され、
また、本市職員の官野選手もメダルを獲得し、われわれ職員だけでなく、千葉市
にとってもうれしいことであった。

これから開催7競技について関心を高め、開催を待ちに待ったと言う形で、2
020年には会場を訪れる人達を増やしていかななくてはならないし、そしてボラ

ンティアなり何等かの形でオリンピック・パラリンピックに関わる市民のかたを一人でも増やしていきたい。

そして、われわれが意識すべきは、2020年以降が千葉市にとって意味のある取組をやっていくことであり、2020年大会のためでなく、2020年以降のまちづくりのなかで、それぞれの部署でやるべきことを、市民とともにすすめていくという意識をもっていただきたい。

今回の行動計画【2017年度版】は主に、ボランティアの体制構築、パラスポーツの推進、オリンピック・パラリンピック教育、そして平成29年度予算などを反映した内容である。全庁を挙げてオリンピック・パラリンピックの成功と、千葉市の共生社会や多様性、スポーツ文化など、都市力の向上、市民力の向上に向けた取組を全庁一丸となって進めていきたい

司 会： それでは、今後の進行は本部長である、熊谷市長をお願いします。

市 長： では、議題について事務局より説明願います。

事務局：【議題について、資料に基づき事務局から説明。】

<質問・意見等>

こども未来局長： ボランティアについてのアプローチが、ほとんど小中学校と大学になっている。高校生を対象にしたボランティア育成という視点が弱いのではないか。

本市の場合、県立高校が多いが、何か高校生に対するアプローチを工夫しないと、2020年に一番動ける大学生がボランティアで活躍できなくなる可能性があるのではないか。

事 務 局： 大学と取組を進める中に、2020年に向けて、大学生が自らボランティア活動をしているサークル活動等、新しく入る学生が活動していけるように大学に働きかけることを考えている。

また、ボランティアは千葉市民だけという考えではないので、千葉県と連携しながら、今の高校生が2020年にボランティア活動ができるよう働きかけていく。

病院事業管理者： 大会期間中の病人に対する対応について、どのようなお考えか、

事 務 局： 役割分担が見えていないのではっきりと申し上げられないが、救急業務や搬送先について、それなりの形が求められることは予想されるので、そのような体制を構築していくことは考えていくことになる。

市 長： 過去にオリンピック・パラリンピックを開催した、千葉市のような競技会場都市のようなところがどのような対応をしたのか調べていくとある程度わかるのではないか。

また、海外からの来訪者が増加する中で、千葉市民の救急を含めた医療の人員等が割かれてしまうことを懸念しており、対応について医師会や千葉大学を含めて早めに議論していく必要がある。

市長： オリパラは、企業とか意識の高い人たちが入り込んでいかないと、とてもできないイベントである。

オリンピック・パラリンピックの公式スポンサーでなくてもできる範囲のことを、フットワークの軽い企業と組んでしっかりやっていくことを考えていったほうがいい。

また、千葉市内にこだわらなくていい。千葉県としてのアイデンティティを持っている企業であれば協力をもちかけてもいいのではないかな。

市長： 以前から、スポーツ観戦文化を作らないといけないと思っていて、スポーツ観戦ボランティアを行動計画【2017年度版】に位置付けてもらいたい。

ドラマティックな大一番だけを観戦するのではなく、日常的に地域のスポーツ大会を気軽に見に行くという文化を根付かせないといけない。

ジェフの試合も開幕と終盤は観客が多い。何かがかかった試合でないと見ない人たちもいる。そこをどう克服していくかが課題である。

例えば県大会に注目選手が出場していたとしても、テレビで取り上げないかぎり見に行く人は少ない。

競技のことを知らないと実際見に行ってもわからないし、誰も競技を解説してくれないから、足を運ぼうとしない。

スポーツ観戦ボランティアを育成し、彼らの周りで観戦すれば競技を解説してくれるような、日常的な大会でも見に行った人が競技のおもしろさとか、見どころとかを理解できる環境を作っていった方がいい。

市長： 出た意見を修正した上で、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉市行動計画【2017年度版】を決定とする。

7 照会先

総合政策局総合政策部政策調整課オリンピック・パラリンピック推進室

TEL 043(245)5048